

12th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入 選 作 品

主催 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会
(若柳町、築館町、迫町、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)
後援 宮城県、若柳町観光協会、築館町観光協会、迫町観光協会、
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、
河北新報社、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、岩手日報社
協賛 富士写真フィルム株式会社、宮城県写真材料商組合

入 選 者

各 賞	題	氏 名	住 所
最優秀賞 (宮城県知事賞)	浄日(じょうび)	菅原敏彦	黒川郡大和町
優秀賞 (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	群翔	大場宗男	栗原郡若柳町
金賞 (若柳町長賞)	雪に佇む	佐藤文昭	登米郡迫町
金賞 (築館町長賞)	伊豆沼の朝	廣野昌邦	宮城県塩竈市
金賞 (迫町長賞)	夜明けの飛翔	高泉良一	遠田郡田尻町
銀賞 (若柳町観光協会会長賞)	水鳥たちの朝	西條きみ子	宮城県仙台市
銀賞 (築館町観光協会会長賞)	たまげてるう〜!(右往左往)	高橋成尚	宮城県石巻市
銀賞 (迫町観光協会会長賞)	夕陽	阿部教子	岩手県一関市
銀賞 (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)	輝く沼の辺で	遠藤正弘	本吉郡志津川町
銅賞 (河北新報社賞)	春を感じて	須田喜悦	志田郡鹿島台町
銅賞 (読売新聞社賞)	ねぐらのコミミズク	伊藤孝喜	登米郡中田町
銅賞 (朝日新聞社賞)	野鳥とふれ合う園児達	二瓶茂	宮城県仙台市
銅賞 (毎日新聞社賞)	飛び立ち	林亮	宮城県仙台市
銅賞 (岩手日報社賞)	夕暮れ	斉藤幸吉	宮城県仙台市
入選	大空への飛翔	三塚律子	宮城県仙台市
入選	着水	鈴木陽介	宮城県仙台市
入選	内沼の夕ぐれ	河野春治	宮城県仙台市
入選	ダイサギ	佐藤幸一	栗原郡若柳町
入選	群翔	千葉稔	登米郡豊里町
入選	朝の野鳥の楽園	四日市健	宮城県仙台市

総 評

今年も、伊豆沼内沼写真コンテストの選考をさせていただきました。今年作品傾向は、とても作風が安定していることでした。野鳥たちを、手堅く捉えた作品が多かったように思います。その分、确实ですが面白味が薄れているということが言えると思います。

反面、1) 作品の安定感が、着実な野鳥観察となっている。2) 風土感が良く出ている。3) 技法的には、ネガカラーよりもリバーサルカラーが圧倒的に多くなった。デジタル表現は、まだ未完成である。というような特色が感じられました。さらに言えば、もう少し四季それぞれの姿を狙ってほしいと思います。冬になるとやってくる野鳥たちは、春や夏、そして秋の豊かな自然、野鳥は冬という自然の結果のひとつなのですから。

フォトコンテスト審査員 竹内 敏 信



1943年愛知県生まれ。名城大学卒業後、愛知県庁勤務を経て写真家として独立。感覚の鋭さと独特のカメラワークで、自然の映像化を極め、新しい風景写真家の旗手として活躍中。93年春、「桜」をテーマに日本原風景を追究したビジュアルな写真展を開催、話題を集めた。現在、日本写真家協会理事、自然科学写真協会理事、日本写真協会会員、日本写真芸術学会会員、日本写真芸術専門学校・現代写真研究所の各講師。



【評】日の出と同時に、水辺の鳥たちが一斉に舞い上がっていきます。真っ赤な太陽を背景に、大空を飛び交う鳥たちのドラマチックな展開です。遙かな太古の昔から、鳥たちが繰り返してきた大自然の、命のドラマが今日も幕開けとなりました。伊豆沼、内沼の定番ともいえるシーンですが、手堅く美しくまとめています。



【評】水田に降り立っていたガンの群れが、何かの拍子に一斉に飛び上がりました。その群舞の姿は圧巻です。的確なシャッターチャンスとフレーミングで、群れを成して飛び上がった鳥たちのざわめきが伝わってきます。

金賞（若柳町長賞）
「雪に佇む」
佐藤 文昭



【評】 白い雪の中で、一羽のゴイサギが静かに羽を休めています。雪は降り積もったばかりで、まだふんわりとしていて柔らかそう。その雪の感触と落ちついた鳥の姿が、妙に巧くマッチして、鳥のいる風景として情感を引き出しています。

金賞（築館町長賞）
「伊豆沼の朝」
廣野 昌邦

【評】 望遠レンズを巧みに使って、湖面を飛び交う鳥の群れを効果的に表現しています。シルエットになった数十羽の鳥たちと、朝日を浴びて輝く環境とが、非常に効果的な味わいを抽出していて、まさに野鳥の樂園を語っています。



金賞（迫町長賞）
「夜明けの飛翔」
高泉 良一

【評】 まさに、朝日が昇ろうとする時間帯です。伊豆沼の雄大な風景を、大空に飛翔する無数の鳥たちを、効果的に、ダイナミックに表現しています。シーズンには、毎朝、これほどの野鳥が飛び立ってくれるのか。これぞ、かけがいのない自然の神秘です。





銀賞（若柳町観光協会会長賞）
「水鳥たちの朝」西條 きみ子

【評】 まだ開けやらぬ静寂の中、羽を休めるサギの群れがとても印象的に捉えられています。画面を支配するブルートーンが美しく、サギの白い色と素晴らしいコントラストを見せてくれているのです。そのことで独特の空気感が生まれました。

銀賞（築館町観光協会会長賞）
「たまげてるう〜！（右往左往）」高橋 成尚

【評】 も〜たまげてしまって、右往左往……。というような、カモたちの行き交う姿にユーモラスな雰囲気があり、それが動感を呼ぶ面白い作品になっています。このタイトルが、より面白い効果を上げてくれました。



銀賞（迫町観光協会会長賞）
「夕陽」阿部 教子



【評】 太陽が、西の空にゆったりと落ちていこうとする時間帯の撮影です。上空を飛び交うカモたちも、まもなく着水して寝ぐらに帰ろうとしているのでしょうか。シルエットの鳥と沼の様子が美しいのです。

銀賞（宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞）
「輝く沼の辺で」遠藤 正弘



【評】 低い太陽が、大空や湖沼、そしてカヤの群落を赤く染めています。この輝きを軸として、前景に小舟の舳先を捉えて、安定した作品に仕立てています。太陽の輝きが、とても印象的です。

銅賞（河北新報社賞）
「春を感じて」

須田 喜悦



【評】何となく、暖かくなっていく頃。冷たい風も和らいできて、大空に羽ばたきたくなくなっていく。ハクチョウ達も、そんな空気を感じているのか、伸び伸びとした仕様が面白い作品。

銅賞（読売新聞社賞）
「ねぐらのコミミズク」

伊藤 孝喜



【評】岸辺の草むらが寝ぐら。そこで休んでいるコミミズクの表情を、面白くリアルに捉えています。両眼に迫力があり、これが写真の力になって訴えています。

銅賞（朝日新聞社賞）
「野鳥とふれ合う園児達」

二瓶 茂

【評】伊豆沼内沼は、恰好の自然観察ランドです。カモやハクチョウ、サギや魚たちを観察して自然の摂理を理解する子供たちは幸せ。いつまでも大切にしたいものです。



銅賞（毎日新聞社賞）
「飛び立ち」

林 亮



【評】太陽の位置が低いので、これを撮影したのは、早朝か夕刻でしょう。低いライティングによって、飛び立ったサギの姿が立体感にあふれていて、素晴らしいのです。

銅賞（岩手日報社賞）
「夕暮れ」

斉藤 幸吉



【評】夕日の姿を、こちらを向いているハクチョウの頭で隠し、ハクチョウにはストロボを炊いて、陰にならないようにしたテクニックはなかなかのもの。その成果が出た作品です。

入選
「大空への飛翔」

三塚 律子



【評】 青空をバックに、悠々と飛翔していくハクチョウ四羽。伸びやかな空間と、白い雲とが効果的な雰囲気をかもしだしています。

入選
「着水」

鈴木 陽介



【評】 カモの群れのなかに、堂々と着水していく二羽の白鳥。大きく広げた羽の動きが、とても印象的です。動感のある作品となっています。

入選
「内沼の夕ぐれ」

河野 春治



【評】 赤く輝く夕日に、シルエットになって浮かび上がる二羽のハクチョウ。その姿がどこことなく寂しげで、それがとても印象的な効果を上げています。

入選
「ダイサギ」

佐藤 幸一



【評】 湖岸にじっと佇んで、獲物を待つダイサギを捉えています。サギは形が美しく、色が、白なのでなんとなく品格があり、映像も美しくなるので効果の上がる被写体です。

入選
「群翔」

千葉 稔



【評】 明け方か、夕方か、薄明かりのなかで飛び交うサギの群れが、とても印象的に捉えられています。この作品、思い切って天地を切り、細長く見せると広がりが出て、いっそう美しい描写になると思います。

入選
「朝の野鳥の楽園」

四日市 健



【評】 カモの群れのなかで、クイーンのような白い白鳥が一羽。カモも白鳥もそれぞれが印象的で存在感があるのは、朝の低いライティングが立体感を出しているためです。